

研究計画書

ゼミ名	青木ゼミ II	チーム名	倍返しだ
タイトル	お菓子屋さんの“おカシな経済”とアベノミクス		
テーマ群	d) 国際経済		
メンバー	井上純一郎 浦塚泰熙 小野雲平 木谷僚太 木村友彦 鈴木崇弘 田村公英 寺地大洲 中務 謙 宮田和也 松木 湧		
研究計画内容	<p>最近、「デフレがなくなりつつある」といわれている。確かに電気料金やガソリン価格が上昇している。また、円安などの影響で、原材料の米国産小麦粉やマレーシア産の植物油の輸入価格が高騰。その結果、「ポテトスナック」といった身近な駄菓子が店頭から消える現象も現れている。ほかにも、菓子パン、マヨネーズなど食料品の値段も上がり始め、わたしたち学生の財布事情と無縁ではいられなくなってきた。</p> <p>しかし、デフレってなんだろう？ どうしてモノやサービスが安く買えるようになる「持続的な物価下落」が問題なのだろう？ 私たちは、こうした素朴な疑問から出発し、長らく日本が直面してきたデフレ現象を、「付加価値デフレ」という視点から調査・分析する。</p> <p>具体的にはまず「デフレのなにが問題なのか？」を考える。通常、デフレは物価目標などに使われる消費者物価指数で議論されるが、日本のデフレは総合的な物価尺度と言われる GDP デフレーターに顕著に現れている。そこで最初に「付加価値デフレとはなにか？」を明らかにする。</p> <p>次に、付加価値デフレの原因を、「GDP の三面等価」という視点から考察する。1998 年から始まる日本のデフレの背後にある要因を、(1)産業・貿易構造の変化、(2) 交易条件の悪化、(3) 賃金デフレの三つに整理し、日本のデフレが持続する国際的背景を明らかにする。そして最後に、現在、安倍政権によって進められているデフレ脱却に向けた諸政策（通常、アベノミクスと呼ばれているもの）のあり方を考える。</p>		